

件 名 索 引

凡 例

1. 見出し項目の配列：各項目を頭文字の発音によりABC順に分け、その中では電話帳方式（五十音順）で配列してあります。なお『見出し語目次』（57頁—66頁）を付しましたので御利用下さい。
2. 論文の配列：見出し項目をゴシックとしその項目に該当する論文名を掲載時期の早いものから順次配列してあります。
3. 参照項目：「手」、「手の外科」および「造影法」については、論文テーマ中にそれらの文字がないものも、それぞれ「手」、「造影」の項からもひけるようにしました。
4. 同義語：同義語のうちの代表的なものをとり、その中にまとめました。しかし、他の語で引いても所在がわかるよう、案内記号（→）を用いてあります。主なものをあげますと、
 - malignant melanoma→悪性黒色腫
 - Ewing, ユーイング肉腫→Ewing 肉腫
 - OA→変形性関節症
 - 変股症→変形性股関節症
 - 高位脛骨骨切術, high tibial osteotomy→脛骨高位骨切り術
 - giant cell tumor→巨細胞腫
 - 微小血管外科, microsurgery→マイクロサージェリー
 - 脳性まひ, CP→脳性麻痺
 - 慢性関節リウマチ, 関節リウマチ, RA→リウマチ
 - 側彎症, 側彎, 脊椎側彎症→脊柱側彎症
 - 脊柱管狭窄症, spinal canal stenosis→脊柱管狭窄症
 - カリエス→脊椎カリエス
 - 脊椎こり症, spondylolisthesis→脊椎すべり症
 - 脊損→脊髄損傷
 - 先天股脱→先天性股関節脱臼
 - ヘルニア→椎間板ヘルニア
 - ガングリオン→ganglion
 - THR→股関節全置換術
5. 各論文は題名、著者名（筆頭者1名、座談会は司会者名）、巻数：頁数（号数および論文の種類（欄名））の順で記載しました。なお、欄名の略称方法は、本号巻頭の『本書の使用法』を御参照下さい。